令和２年度学校評価結果報告書

田村市立常葉中学校

１　学校評価（児童・保護者・教職員）アンケートの結果の概要

（1）教育目標の「健康」に関して

質問項目１「あなたは毎日７時間以上の睡眠時間をとることができていますか。」では、生徒・保護者の A・B の回答が約７割となり、概ね良好である。しかし、２５％の生徒が週に１～２日しか７時間以上の睡眠時間を確保できていない様子も感じられる。教職員が、２～３割の生徒が眠そう、疲れている様子で生活していると回答していることからも、成長期に必要な睡眠時間について、学習と部活動の両立に向けた「自己マネジメント力」の育成等についての指導をすることが必要である。同時にそれらを保護者にも伝え、学校と家庭が連携する必要も感じる。

質問項目２「あなたは保健体育の授業や部活動で、真剣に運動に取り組み、体力の向上に努めていますか。」では、生徒・保護者・教職員の A・B の回答が約８割であり、概ね良好である。３年生が進路実現に向けて学習している時期にアンケートを実施したことが C の回答が２割を超えた原因であると考えられる。運動が苦手で体力の向上を目指していない生徒や保護者がわずかにみられるので、保健体育の授業等を通して、自己の健康管理ができる生徒の育成に努めたい。

質問項目３「あなたは、休日部活動がない日でも適度な運動をするように心がけていますか。」では、C・D の回答が、生徒は４割を超え、保護者は７割になる。新型コロナウイルス感染症の影響も考えられるが、普段から運動に親しむ習慣を身につけさせる指導が必要である。この結果についても３年生の進路の時期と重なったことも一因であると考えられる。

質問項目４「あなたは、成長期に必要な栄養素やバランス、量を考えながら食事をしていますか。」では、本校で重点をおいて取り組んでいる食育指導の成果が生徒の A・B の回答が７割を超えていることに表れている。保護者の A・B の回答は５割を超える程度であることから、食育の授業を通して感じたことや授業の内容等が保護者に伝わっていないことも考えられる。朝食摂取率やバランスの良い食事については、家庭の協力なしでは実現できないので、積極的な情報発信と食育指導の充実が求められる。

質問項目５「あなたは、自分の歯の健康に関心を持ち、歯磨きをしていますか。」では、生徒と保護者・教職員の A・B の回答が非常に高く、歯磨きの習慣がしっかり身についている様子がうかがえる。小学校から取り組んでいるフッ化物洗口や歯科指導が定着していると考えられる。C・D の回答が生徒と保護者に若干見られるので、今後も指導を続ける必要性を感じる。

質問項目６「あなたは、「ノーメディア・デー」を実践していますか。」では、生徒の半数以上が A・B と回答しているが、保護者は半数以上が C・D と回答している。生徒と保護者の感じ方に大きな差が見られる。生徒保健委員会の呼びかけや調査を毎回行っていることもあり、教職員は８割以上がノーメディアデーを意識させていると回答している。生活からインターネット等を切り離すことは難しいことではあるが、読書や家族との会話の重要性を理解できるようにさせたい。

（2）教育目標の「自主」に関して

質問項目７「あなたは、宿題を含めて家で勉強をしていますか。」では、半数以上の生徒と保護者が自主的に学習していると回答している。生徒と保護者の回答に大きな差がないことからも、家庭での学習週間が定着していることがうかがえる。一方で B と回答している生徒と保護者がそれぞれ３割程度見られる。今後、自ら課題を見つけ、解決する喜びを感じることや学び方の指導をすること、家庭学習スタンダード等の活用を進めることで、A の回答へと変化させることができると考える。

質問項目８「あなたは、準備をしっかりして授業に臨んでいますか。（２分前着席・準備物・予習）」では、生徒・保護者・教職員が A・B の回答で９割を超えており良好である。今後も授業に取り組む姿勢等、学習習慣についての指導を継続していく。

質問項目９「あなたは、授業でしっかり先生の話を聞いて、質問されたことに対して自分の考えを答えていますか。また、わからないことは質問するようにしていますか。」では、生徒の C・D の回答が半数近くになっている。本校の生徒の課題として、「人前で発表することが苦手」という一面が挙げられているが、その課題が浮き彫りとなった結果である。発表する場面をペアから小集団、そして全体へと変化させることで、達成感や自己肯定感を味わえる授業の構築が必要であると考える。また、生徒が質問しやすい雰囲気作りに努めると共に、自ら課題を解決しようとするアクティブラーナーを育てる手立ても必要である。

質問項目１０「あなたは、目標の実現に向けてどのようなことを頑張っていますか。（複数回答可）」では、生徒・保護者・教職員の全てで B の回答が一番多い。また、生徒の半数以上が C の項目に回答していることから、生徒の学習に取り組む姿勢は育っていると考えられる。本校の課題である「学力の向上」に結びつけるためには、A の「予習・復習をして授業に臨む」生徒を増やしていく必要があると考える。家庭学習スタンダードや本校で作成している学習のしおり等を活用して指導を続けていきたい。

質問項目１１「あなたは、日直や係、委員会活動に自主的に取り組んでいますか。」では、生徒・教職員の A・B への回答が９割を超えており、生徒が熱心に係活動に取り組んでいることがわかる。B の項目の回答では、教職員から見て自主的・主体的に活動できていない生徒が見られることもわかる。今後の委員会や係の活動において、生徒が自ら考え、判断し、行動する場面を多く設定することで、生徒の自主性・主体性を養っていきたい。

質問項目１２「あなたが学習以外で、自主的に取り組んでいるのはどのようなことですか。（複数回答可）」では、A のあいさつ、B の思いやりをもった行動・言動への回答が多く、本校で掲げる「常中生徒実践６項目」が生徒に浸透していることが分かる。保護者の A への回答が一番多いことからは、生徒が地域に戻った際もしっかりとあいさつができていることの表れであると考える。C の項目において、保護者の回答が低いことから、家庭での身の回りの整理整頓ができていないこともうかがえる。

（3）教育目標の「礼儀」に関して

質問項目１３「あなたは誰に対してもあいさつをすることができていますか。」では、生徒・教職員の A・B への回答が約９割となっており、概ね良好である。しかし、B・C

の自分からできないことがあるに回答している割合も高く、今後の改善点であると考える。人間関係を良好にすること、コミュケーション力の基礎となること等、あいさつについての指導を行い、誰に対しても、自分から進んであいさつをする態度を育てたい。

質問項目１４「あなたは時と場に応じた言葉づかいをしていますか。」では、生徒・保護者・教職員の A・B への回答が９割を超えており、概ね良好である。しかし、B・C に回答する保護者の割合が７割を超えることから、保護者や関係の近い人に対する言葉づかいに対して正しい言葉づかいができていないと感じていることが分かる。今後、様々な機会を捉えながら、時と場に応じた言葉づかいについて指導し、改善を目指していきたい。

質問項目１５「あなたは、「ありがとう」や「ごめんなさい」等の言葉を素直に言うことができていますか。」では、７割以上の生徒が素直に言えていると回答している。しかし保護者は、B・C の回答が４割を超える結果である。中学生という成長段階から考えると、家人に素直に感謝を述べることは難しいことではあるが、このアンケートの結果を生徒に伝えながら、意識して「ありがとう」が言えるような生徒を育てていきたい。

質問項目１６「あなたは、自分の身だしなみ（服装や頭髪）に気をつけて生活をしていますか。」では、生徒・保護者・教職員の回答は概ね良好である。しかし、保護者の考えは厳しく、A の回答は他より低く、１割以上が C・D と回答している。保護者が期待する身だしなみと生徒が考える身だしなみの差があると感じる。家庭での働きかけやルールを決め、実践するような取組が必要であると感じる。学校だより、学年通信、保護者との懇談会等を通して、保護者にも生徒の言語環境や身だしなみ等の生活習慣を確立することについて、協力してもらえるような働きかけをしたい。

質問項目１７「あなたは、家族や友人に思いやりをもって接することができていますか。」では、生徒・保護者・教職員の A・B の回答が９割を超えており良好である。生徒自身が力を入れて取り組んでいることとも一致している。コロナ禍における差別や偏見、中傷等を引き起こさないためにも、継続して道徳や学級活動の時間を通して心の教育の充実に努めていく。

質問項目１８「あなたは、学校やその他の公共施設、物を大切にして生活していますか。」では、本校は無言清掃を実施しており、どの生徒も熱心に清掃に取り組んでいる。さらに美化委員会では、自主的な活動として校舎周辺のゴミ拾いを行うなど、清掃への意識は高い。それが、生徒と教職員の A・B の回答が 100 %につながっていると感じる。部活動等で他の施設を使用することも多く、実践の場がたくさんあるので、機会を捉えながら生徒への指導を継続していきたい。

（４）「学校に関する項目」に関して

質問項目１９「あなたは、楽しく登校することができていますか。」では、２割以上の生徒が、苦手な学習や友人関係の悩み等により登校したくないと思うことがあると回答している。それに比べて保護者の C・D の回答は非常に少ない。その分７割を超える保護者が A と回答している。自分自身の悩みや苦しみ等について、SOS を出す力が非常に大切になっていることにも触れ、ノーメディアデー等、家族の時間を作ることについての意識の高揚も行う必要がある。

質問項目２０「あなたは、学校での出来事や友達のことを家族と話しますか。」では、A・B の回答がそれぞれ８割程度であり概ね良好であるが、質問項目１９の結果のように生徒と保護者の感じ方が違うこともある。生徒の小さな変化に気付き、励まし、支援するためにも家族で話をする時間の確保をお願いすると共に、学校からの電話連絡やお便り等を通してこまめに情報提供をすることが必要であることも感じる。

質問項目２１「あなたは、困ったことや悩みがあるときに誰に相談しますか。（複数回答可）」では、困ったことや悩みがあるときに相談できる誰かがいるという生徒が多いことが分かる。相談相手で一番多いのが友人であることもよい関係を築いていることの表れである。しかし、D の「誰にも相談しない」と回答した生徒が１割以上いることが非常に心配である。生活ノート等での生徒の実態把握やチャンス相談を通して小さな変化に気付くこと、さらには SC や心の教室相談員との連携と周知を進め、相談しやすい雰囲気作りを進めていく必要がある。

質問項目２２「あなたは、学校の授業がわかりやすいと思いますか。」では、生徒の回答は A・B が９割を超えている。しかし教職員の半数以上が授業を理解しているのは６割以下であると回答している。この結果から、教師が授業改善に取り組み、「わかる授業」を構築する必要があることが分かる。また、生徒がわからないことを伝えたり、質問したりする雰囲気を醸成する必要があるとも感じる。授業の最初に復習を計画的に位置づけたり、定着確認シートを活用したりすることも有効であると考える。

質問項目２３「あなたは、どのような授業がわかりやすいと思いますか。（複数回答可）」では、生徒の回答で多かったものが「友達と話し合いながら」と「ICT を活用した授業」であった。この２つの授業の方法には、保護者も教職員も効果があると回答している。本校ではどの教科においても ICT 機器（タブレットやパソコン）を活用した授業や話し合い活動を通して、多くの意見に触れ、自分の意見と比較しながら自分の意見をまとめる活動を取り入れているが、その成果であると考えられる。また、C・D への回答から、少人数で学習する良さを生かした、T-T やコース別の学習に対する評価が低いことがわかり、今後の改善に向けた課題であると感じる。

質問項目２４「あなたは、学校からのお便り（学校だよりや学年通信等）を家族に見せていますか。」では、生徒・保護者とも A・B の回答が８割を超えており、良好である。しかし C・D と回答している保護者も複数いる。学校からの配付物で情報発信を行う面もあるため、生徒への呼びかけと保護者への依頼を行い、確実に保護者に届くようにしたい。

質問項目２５「あなたは、学校行事等に保護者や地域の方が参加することをどう思いますか。」では、今年度はコロナ禍の影響で、保護者が参加する行事が少なかったことが結果に表れていると感じる。保護者の回答では９割以上が参加したいと考えていることも分かり、常葉地区の教育熱の高さを感じることができる。中学生の発達段階を考えると、D と回答する生徒がほとんどいないことも学校の行事や授業参観に保護者が参加することへのプラスのイメージを感じることができる。

質問項目２６「あなたは、常葉小中の一貫して活動（授業や行事）することをどう思いますか。」では、生徒・保護者・教職員の A・B の回答がいずれも７割を超え、概ね良好である。しかし、C と回答している割合もいずれも２割いることから、小中一貫教育で取

り組んでいる内容等を保護者や地域に周知する必要性を感じる。今年度はコロナ禍の影響で予定していた小中一貫の行事が延期または中止となったことも原因であると思われるが、保護者への周知と児童・生徒の具体的な交流等が次年度の課題である。

2　学校評価（自己評価）の総括

（1）教育目標の「健康」に関して

どの質問項目においても、本校が力を入れて取り組んでいる「健康教育」の成果が結果として表れている。今後の課題としては、生徒に運動習慣を身につけるさせること、生徒・保護者のノーメディアデーに対する意識を高め、積極的な取組を呼びかけていくことが挙げられる。

（2）教育目標の「自主」に関して

主体性を身につけることが本校生徒の課題であると考え、教育活動を行ってきたが、更に実効性のある取組を行う必要性を感じる結果となった。B と回答する生徒を A の回答へと変化させるための働きかけを重点的に行いたい。また、質問項目１２のボランティア活動への取組についても、生徒が実感できるような活動の場を設定したい。

（3）教育目標の「礼儀」に関して

どの質問項目においても概ね良好な結果となっている。しかし、生徒と保護者の感じ方に差がある。中学生という発達段階を考えると保護者や家人に対する礼儀という面では実践が難しい面もあるが、道徳の授業等で「感謝する心」を育てながら、誰に対しても礼儀正しい生徒の育成に努めたい。また、学校だよりや学年通信、学校ホームページを通して、生徒の様子を保護者に伝えることにも力を入れたい。

（4）「学校に関する項目」に関して

どの質問項目においても概ね良好な結果となっている。本校生徒の課題である学力向上に向けて、生徒が感じる「わかりやすい授業」を構築するために、「話し合いを通しての授業」「ICT を活用した授業」に併せて、「T-T 授業」や「コース別学習」についての取組に工夫が必要であることが明確になった。

小中一貫教育については、多くの行事等が中止になったことの影響が考えられるが、活動の内容や生徒の姿等を周知し、「よさ」を感じることができるように努めていく。

3　学校運営協議会委員による学校関係者評価

（1）教育目標の「健康」に関して

○　睡眠、食事、歯磨き、学校での運動習慣など身体の健康にかかわる基本的な生活習慣が身についている様子がうかがわれ、おおむね良好ととらえられる。今後は新たな実践事項あるいは評価の指標レベルを検討するなどして、さらに自律的に取り組めるよう指導に努めていくことが期待される。

○　健康全般について、自主的な取り組みを意識させることが重要であると感じる。

○　小学校に比べて睡眠時間が短くなるのは従来と同じ傾向であるが、ここで考えたいのは、やはり情報機器の利用と関係だと思う。

○　宿題が睡眠の妨げになってはならないと感じる。そのために授業に支障が出るのでは、本末転倒になってしまうと思う。

○　中学生になると勉強や部活動などで睡眠時間が取りにくくなってくる面があるかと思うが、自分で生活をコントロールできていればいい。

○　睡眠時間については、概ね良好であると感じる。C・D の回答数については、無視できないが、家庭環境によるところもあると感じる。

○　適度な運動について考える場合、生徒に数値的な目標を考えさせて記録させるような自主的な取組を促すこともよいと考える。

○　運動習慣については、今回のコロナ禍の影響を考慮すると対応が難しい部分もあると思う。新しい生活様式に伴った運動方法の検討も必要だと感じる。

○　体力の向上について、C と回答する生徒が多いことについては、運動が苦手でも運動部に所属している生徒は相当数いると思う。その生徒に対してどんな手立てをするかが課題ではないか。運動が苦手な生徒にとっては、土日は休養の時ととらえることもよいのではないか。

○　食事については、肉体的成長期にあることから自己規制が難しい面もあるが、家庭との連携がなければ有効性は確保されない。食育の意義を家庭と共有しつつ、生徒に正確に伝え理解させる取組を先進校などの事例を参考にしつつ実施することが必要である。また、食育については田村市全体としての取組が求められる。

○　食事については、朝食についての問題（菓子パン１つ等）も耳にする。家庭の意識が大切と思われる。

○　食育については、特に家庭科のおいて積極的な働きかけがなされていると感じる。

○　歯の健康については、概ね良好であり、継続的な指導ができている証左であると思う。

○　ノーメディアデーへの取組は生徒及び保護者の評価が低く残念である。生徒一人ひとりの家庭環境の違いに鑑み、今後は生徒自身が日常的に達成可能な目標を定め、ショートスパンで振り返り、また次の目標を設定して取り組むといったことなど、手立ての検討が必要ではないかと考える。

○　中学生にとっては、ノーメディアという数値的なものよりも、メディアリテラシーの観点からの指導も必要である。適切な情報機器の利用といった観点から、外部講師を活用する等の方策も必要である。

○　ノーメディアデーに関しては、保護者の半数が D の回答になっているので、今後生徒や家庭に対し、なぜノーメディアデーを実施しているのかという意識付けや啓発の機会があるとよい。

○　ノーメディアデーを実践できているのは２割なので、生徒だけでの実践は難しいことだと感じた。

（２）教育目標の「自主」に関して

○　学習に関する基本的態度（授業の準備・家庭学習の習慣など）がしっかり身につい

ている様子がうかがえ、この点についてはおおむね良好ととらえられる。

○　授業への取り組み方については、小中一貫教育のよさが生きるところだと思う。中学校で良好なのは、小学校で対策がされているからこそだと感じる。

○　自主的な学習については教職員の方が数値が高い。生徒や保護者の数値が低いことは期待値の高さが要因であると考える。適切な分量の課題を学校全体として、どう計画的に課すことができるかが大切な点であると考える。

○　自主学習ノートの取組については、生徒による B 評価が多く好ましいが、学習内容の質はどうかについて考える必要がある。この点について可能なら、次年度に向けた手立てについて付記することも必要ではないかと考える。

○　先生方の日々の努力に頭が下がる。発達の偏りを抱え、学習（他と同じことを求められる）に苦痛を感じている生徒もいる。強すぎるストレスは害になる。自主性を育まず、その後の人生に影を落とす。ぜひ、合理的配慮はもちろんのこと、個に応じた支援をお願いしたい。

○　自分の考えを発表しているが、分からないところがそのままになっているという生徒が多く、教育活動の大きな課題であることがわかる。様々な教育手法を用いながら授業力向上に取り組むとともに、市教育委員会と力を合わせながらドリル学習などで生徒が自己学習を進める仕組みなどを研究開発してほしい。

○　家庭学習を習慣化させている生徒が 6 割を超えていることはかなり良好な数値である。B を A に結びつける働きかけがうまくいけば、学力向上が期待できる。

○　田村地区の課題と言えるかもしれないが、与えられたことや決められたことにはまじめに取り組むものの、自ら課題を見出し、納得いくまで調べたり質問したりして追究するという力はアンケート結果からも未だ十分ではないととらえられる。アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の推進と合わせ、日常の授業を通じて「質問する」習慣を身につけさせることも必要ではないか。（＜黙って聞いていること=思考していない状態＞という可能性も考えられる。）

○　委員会活動においては、生徒の評価と教職員の評価に差があり、期待値の差が表れていると考える。教職員の思いを生徒にストレートに伝える働きかけが必要である。

○　生徒・保護者・教職員ともに「あいさつ」「思いやりのある行動」ができていると評価していることは、素晴らしい成果である。

○　学習以外で自主的に取り組んでいることについては、学校と家庭が協働するところだと思う。意義や役割分担の共通理解が図れれば、さらによいのではないかと思う。

（３）教育目標の「礼儀」に関して

○　礼儀に関しては､いずれの評価項目についても生徒・保護者・教職員の評価が高く、良好であるととらえられる。今後は新たな重点事項や評価の指標の検討などを行い、生徒が生活を通じて実践していくために素地を定着させることを期待したい。

○　礼儀に関する全ての項目において、A の回答が小学校と比べて上昇しているので、評価できると思う。

○　礼儀全般について、思っていてもできない生徒に対して、指導する側の教職員や親の取り組みによって、子どもの受け取り方や受け止め方もよい方向へ変化すると考え

る。小学校の時から継続して実践させることで中学校での評価も上がると考える。

○　あいさつについては、質問項目１２との関連で考えると、生徒の A の回答がもう少し高くてもよい気がするが、全体として評価できる。

○　言葉遣いについては、第二次反抗期にあるとされる中学生にあって、A の回答が三者ともに３割を超えていることは大いに評価できる。

○　ありがとうやごめんなさい等を素直に言うことについては、感情を言語化できるような教育をより一層充実させてほしい。朝の読書やビブリオバトルなどへの参加を通して、読書への関心を高める取組の拡充に期待したい。

○　身だしなみについては、評価できる値となっている。家庭との連携が必要な項目なので、「清潔」をキーワードにした取組を進めていけばよいと思う。

○　身だしなみについては、家庭が中心となり、学校・地域が応援するところだと思う。

○　思いやりについては、評価できる値となっている。差別や偏見の醜さに気付かせる・気付く心を育てる教育を継続していってほしい。

○　思いやりのある行動については、地域ボランティアを活用し、関わりを持つことで実践の場となると思う。

○　公共心については、十分に評価できる値となっている。清掃への意識が高いことは、他者を考える意識の高さに間違いなくつながる。素晴らしい成果である。

○　公共性の意味や物の大切さ等を大人が思うほど生徒が理解していないのではないかと感じている。認識する目を育てていくような大人の関わり方（教えるべきことをちゃんと教える）が大切なのではないかと思う。

（４）「学校に関する項目」に関して

○　楽しく登校することについて、生徒の約２割が C・D 評価であることは重く受け止める必要があると考える。隙間時間を活用した担任や担任外の教職員などとの頻繁な教育相談による心の問題の把握が大切ではないかと感じる。

○　楽しく登校させるにあたって、生徒にとって苦手な学習ながらも楽しく取り組めるような支援が必要ではないかと感じる。

○　学校を楽しくないと感じている生徒が２割いる。友人関係の悩みは、感情の言語化と大きく関係していると思われるので、言語教育の拡充が必要と考える。小学校と連携して語彙力向上のための取組が求められる。

○　悩み事の相談について、生徒の D の回答が多いことが課題だと感じる。スクールカウンセラーのさらなる活用と「相談することは当たり前」という雰囲気作りをぜひお願いしたい。

○　授業のわかりやすさについては、教職員の D の回答が５割ととても高い数値になっている。先進校の事例などを参考に、教職員の力量向上や授業改善に取り組んでほしい。

○　先生方がわかりやすい授業をすることについて、戸惑い、困っていることがわかるような気がする。小学校での指導法に学ぶのも１つの方法ではないかと思う。

○　わかりやすい授業について、C・D と回答している生徒のために、授業を含め、個に応じた個別の指導・支援等の工夫がさらに必要なのではないかと思う。一斉に同じ

ことをさせることだけがよいのではないと思う。

○　わかりやすい授業について、教職員の自己評価の低さが気になるところではある。この結果には様々な要因があると思うが、その要因を探り、適切な対応をしていくことが望まれる。

○　わかりやすい授業において、「友達との話し合いのある授業」を楽しいと感じる生徒が多いことは、学年・学級の中の人間関係が良好であることもうかがえることであり、大変好ましい。今後はより質の高い生徒同士の学び合いを目指していくことが望まれる。

○　学校からのお便り等を保護者に手渡させることは、親子の関係性の構築や社会性の獲得などの観点から重要である。一方で、家庭へ確実に連絡しなければならない連絡事項等は一斉メール等のデジタル的な手法も有効である。

○　学校からのお便り等については、「学校・家庭が協力して子どもを育てていきましょう」という、協働の視点を持って取り組むとよいのではないか。

○　学校行事への参加については、９割の保護者に参加していただけると思うと、非常に心強く感じる。

○　小中一貫教育については、生徒・保護者・教職員いずれにおいても肯定的な受け止めが多いので、今後も継続的な質の高い取り組みが望まれる。

○　生徒や教職員が「小中一貫教育」をどうとらえているか、その「よさ」は何だととらえているか、また授業の中でどう取り扱っていくかが大切だと感じる。

４　今年度の学校経営のまとめと次年度への改善点

常葉小学校との小中一貫教育の２年目、常葉小中学校運営協議会の設置を受け、小中で統一した教育目標「健康」「自主」「礼儀」の達成のために、生徒の発達段階に応じた指導を進めてきた。その成果と課題を確認するために、生徒・保護者・教職員に対して学校評価アンケートを実施した。その結果を分析し、自己評価を行い、その後学校運営協議会委員による学校関係者評価を実施した。そのことにより、今年度の教育活動の成果を確認すると共に、次年度に向けた課題を明確にすることができた。

次年度は、課題の解決に向け、以下の項目に重点を置きながら、取組を進めていく。

「健康」に関しては、ノーメディアデーに対する取組を工夫する。メディア使用の目的や時間等について個人や家庭としての目標設定と自己評価、メディアリテラシーについての教育等を推進し、それらを学校と家庭で共通理解のもと進めていく。

「自主」に関しては、家庭での学習習慣や授業等に臨む態度が確立されつつあるので、次の段階として、学習の質やわからない問題に出会ったときに、調べたり、質問したりする等の学びに向かう姿勢を身につけられるように支援をする。

「礼儀」に関しては、現在の取組を今後も継続していく。

「学校に関する項目」に関しては、生徒の学力向上と教師の授業改善・授業力の向上に力を入れて教育活動を行っていく。ICT 機器（タブレット）の活用、授業スタンダード・家庭学習スタンダードを基にした取組、「考え、まとめ、発表し、深め合える授業」の構築を行い、協働的な学びにつなげたい。